

学校 教育 目標	『自らの生き方を切りひらく子どもの育成』～やさしさ いっぱいかがやく えがお～ 【知】自分らしさを発揮する子どもの意欲を引き出すようにします。 【徳】信頼と思いやりをもって、共に生きることでできる素晴らしいさを実感できるようにします。 【体】自ら進んで心を育て、体づくりができるようにします。 【公】豊かなかかわり合いを通して、主体的に行動する力を育てていきます。 【開】地域を愛し、地域に学ぶ姿勢を大切にします。				
学校 概要	創立 154 周年	学校長 白井 亮	副校長 臼木 基	2 学期制	一般学級: 17 個別支援学級: 4
	児童生徒数: 520 人 主な関係校: 緑が丘中学校 山下みどり台小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈自分づくりに関する力〉 〈情報活用能力〉 〈言語能力〉	・緑が丘中学校 ・山下小学校 ・山下みどり台小 学校	○基本的な生活習慣を身につけ、すすんで学習に取り組む子ども ○人との関わりを通して、自己を認め、他を大切にできる子ども ○年3回以上の小中一貫教育の共同研究を行っていきます。 ○相互の授業参観、研究討議、児童生徒、教師間の交流を推進します。 ○緑中ブロック小中一貫カリキュラムの運用・改善を行います。

中期 取組 目標	○感じたことを言葉で伝え、相手の思いを受け止めて聞く子どもを育てます。 ○目的に合った情報を取捨選択し、活用しようとする子どもを育てます。 ○自分や友達の心や身体を大切にできる子どもを育てます。 ○子どものまちへの思いを引き出し、地域と連携しながら、人と関わろうとする子どもを育てます。
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	『子どもの主体性を育み「できる・わかる・やってみたい」を引き出す授業づくり』を目標に掲げて取り組む。子どもの主体性を育むための手立てを考えたり、よりよい授業を目指すために教職員全体で授業改善に取り組んだりする。
担当	推進部	
徳	人権教育	①子どもたちの変化に気づき、困り感に寄り添うためにICTを効果的に活用し、実態把握、学習支援に取り組む。学校全体で児童理解を進め、子どもの自尊感情を育む。②規範意識や人権を尊重する心、社会参画意識をさらに高めるために人権について考え、自らのテーマを定めてしっかり振り返りを行う。③よりよい学校生活をおくるために、学校スタンダードの見直しに児童の声を反映させる。④外国につながる児童の学習保障と、校内の多文化共生の視点から、人権意識を高める。
担当	経営部	
体	健康教育	①健康な心と体の育成を図るため、全校で取り組むことができる活動を子どもたちの声を取り入れて計画する。②給食時間や各教科における食に関する指導、いのちの教育を計画的に実施する。③子ども一人ひとりが自身の生活を振り返り、規則正しい生活習慣の大切さに気づき実践することにつなげる。
担当	安全部	
公 開	人との関わり	①社会参画意識をさらに高めるために、子どもたちの声を取り入れた自然体験や生活体験、地域を生かした福祉教育を充実させ、活動の振り返りを通して学びを深める。②地域のことを理解し、関わりを深めるために、ICTや地域の方へのインタビュー等を活用し、情報の収集に取り組む。
担当	指導部	
いじめへの対応		①年2回のいじめ早期発見アンケート等の実施後、個別面談を行い、実態把握に努める。子どもたちとの会話や様子の変化をていねいに見取り、いじめの未然防止、早期発見につなげる。②SOSの出し方プログラムを早期に実施し、身を守るスキルを身に付けさせる。③月1回いじめ防止対策委員会を行い、子どもの現状を把握し、学校・保護者・地域、必要があれば関係機関と連携して対応を検討していく。
担当	児童指導	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①ブロックリーダーや学年主任、教科主任を中心に経験の浅い教員に対して師範授業を行い、メンターチームの授業力向上を図る。②チーム学年経営の視点から、全学年教科担任制を実施していきながらICTを効果的に活用して業務の効率化を図る。
担当	教務部	
情報教育		①「情報活用能力の育成」各学年で身に付けるべき情報活用に関する具体的資質・能力について、日々の指導の積み重ねを情報共有する。②「情報モラル教育の充実」最近の事例を教職員で共有し、子どもたちのモラル意識が高まる指導を工夫する。
担当	視聴覚部	
言語活動		各教科の目標を意識しながら子どもの思いを生かした授業を計画し、他者と協働的に学習を進める場や、自分の考えたことや感じたことを表現する場、相手の思いを受け止める場などを設ける。
担当	推進部	
自己理解・他者理解		①年3回YPアセスメントを実施し、児童一人ひとりの背景要因に寄り添い、自己肯定感を高められるような支援を特別支援COを交え学年で検討する。②年5回横浜プログラムを実施し、自己理解・他者理解を深める機会につなげる。③横浜スタジアムに蓄積される学習状況調査等の情報から自身を客観的に把握する、メタ認知力を段階的に身に付けていく。
担当	児童指導	
特別支援		①個別の教育支援計画・指導計画を活用し、一人ひとりの思いに寄り添い、個に応じた支援を全教職員協力のもと行う。②3日連続で欠席した場合には子どもの様子を見に行く等、登校に不安を抱える子どもの思いに寄り添い、登校の仕方について柔軟に対応する。③特別支援教育に関する校内研修を実施し、配慮を要する児童への理解を深める。④特別支援教室を運用し、学習に困り感を抱える子ども安心して登校できる環境を整える。
担当	児童指導	